

朝鮮史研究、植民地研究に必要不可欠の資料を厳選。

# 日本植民地下の 朝鮮研究

全4巻

広瀬 順皓 編・解説

クレス出版



嘉仁親王の韓国訪問（1907年10月）

## 日本植民地下の朝鮮研究 全4巻

広瀬 順皓 編・解説

- |     |           |           |               |                       |
|-----|-----------|-----------|---------------|-----------------------|
| 第1巻 | 総督政治 全    | 青柳綱太郎 編   | 定価18,000円(税別) | ISBN978-4-87733-563-2 |
| 第2巻 | 朝鮮統治論 初版  | 青柳綱太郎 編   | 定価24,000円(税別) | ISBN978-4-87733-564-9 |
| 第3巻 | 最近の韓国     | 松宮春一郎 著   |               |                       |
|     | 朝鮮の人口研究   | 善生 永助 著   |               |                       |
|     | 朝鮮統治秘話    | 朝鮮行政編輯局 編 | 定価26,000円(税別) | ISBN978-4-87733-565-6 |
| 第4巻 | 朝鮮に於ける内地人 | 朝鮮総督府 編   |               |                       |
|     | 近代朝鮮史研究   | 朝鮮総督府 編   | 定価24,000円(税別) | ISBN978-4-87733-566-3 |

A5判/上製クロス装 揃定価92,000円(税別)

2010年11月末日刊行 ISBN978-4-87733-567-0(セット) C3322

クレス出版好評既刊書

### 朝鮮総督府 生活状態調査 地域編

全5巻 広瀬 順皓解説

大正末年から昭和10年にかけて朝鮮総督府官房庶務部調査課が刊行した一連の調査資料のなかで、生活状態調査として刊行されたもの

のうち、朝鮮総督府嘱託善生永助が編纂執筆した調査報告書。

①水原郡 ②濟州島 ③江陵軍 ④平壤府 ⑤慶州郡

揃定価75,000円 ISBN4-87733-321-5(セット)

### 朝鮮総督府統計要覧

全10巻 朝鮮総督府編 広瀬順皓解説

土地、気象に始まり、産業、金融、財政、交通、警察、衛生等、植民地朝鮮をデジタル化した経済的社会的研究の基礎資料。多くの項目については「最近数年分を列記して」いるから、各項目にかかるその変遷消長の状態を通観することができる。

揃定価158,000円 ISBN4-87733-257-X(セット)

### 増補朝鮮総督府三十年史

全3巻 朝鮮総督府編

朝鮮総督府の施政を歴代総督毎に分けて詳細に記述し、日本の朝鮮支配四十年を通覧する第一級史料。「施政方針」「財政」「産業」と続く各項目は、当該時期の朝鮮統治を簡潔に物語り、日本の朝鮮植民地支配研究の辞書代わりにも利用できるレファレンス・ブック。

揃定価36,000円 ISBN4-87733-062-X

### 朝鮮満蒙地誌叢書

全3巻 朝鮮及満州社編

大正7年に刊行された「朝鮮及満蒙叢書」を底本とする朝鮮・満州・シベリアの貴重文獻。日本近代史、東アジア近代史研究必読書。

朝鮮地誌 定価26,000円 ISBN4-87733-081-X

満州地誌 定価16,000円 ISBN4-87733-082-8

西比利亞地誌 定価8,000円 ISBN4-87733-083-6

### 満州国現勢

全9巻 満州国通信社編 井村哲郎解説

建国から康德10年版まで刊行された、満州国に関する基本的な事項の変遷を調べるために有用な年鑑。満州国の特記すべき事績、中央行政統治機構の概説と主要官僚の略歴等を詳細に記述し、年表、主要統計も掲げている。満州国をめぐる内外情勢に関する解説もある。

揃定価250,000円 ISBN4-87733-100-X,101-8

### 満洲誌草稿

全15巻 関東都督府陸軍經理部編 安富歩解説

明治39年より同44年に至る実地調査報告に基づく膨大かつ詳細な秘密資料。豊富な数量データを表や図で示し、図版や写真も多数収載。

第一輯 一般誌全4巻、第二輯 満洲地方誌(奉天省、吉林省、黒龍江省)全7巻、第三輯 接壤地方誌全3巻、附録 全1巻

揃定価298,000円 ISBN4-87733-114-X(セット)

### 日本委任統治地域行政年報

全7巻 外務省編 等松春夫解説

1920年から38年まで日本政府が毎年国際連盟に提出した日本統治下の南洋群島の行政報告。行政のみならず法制、産業、交通、労働、教育、医療、軍事等のデータを収録し、戦間期の植民地支配の国際比較研究にも役立つ、南洋群島統治研究の基礎史料。

揃定価100,000円 ISBN4-87733-061-5


### 樺太廳報

全7巻 樺太廳文書課編 荒澤勝太郎解説

樺太廳の施政並びに法令に関する意図や其の内容を詳かにし、又汎く本島の産業・文化に関する研究意見を紹介することを趣旨とした官庁誌。第1号(昭和12年5月)~第20号(昭和13年12月)の全号全頁、「樺太時報」の目次・樺太日誌・資料月報を全号復刻。

揃定価97,000円 ISBN4-906330-10-X

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎(03)3808-1821 ㊟(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

駿河台大学教授

広瀬順皓

第1巻 総督政治 全

青柳綱太郎編／大正7年／朝鮮研究会

【内容】 叙論、日鮮一家史論、韓末の回顧、日韓合併、李王家の優遇、朝鮮人よ須らく大目標を立てよ、行政、財政経済、司法、土地調査、鮮語併合論、防備と治安、警務機関、宗教、教育、朝鮮人膨張論、農業、産業同化論、治水私論、拓殖事業、工業、商業、鉱業、林業、水産業、交通及通信、官営事業、衛生、朝鮮士民よ速かに日本建国の精神を了解せよ、与朝鮮士民書、財政独立論

今回『最近の韓国』から『近代朝鮮史研究』まで7冊を4巻に纏めて『日本植民地下の朝鮮研究』として刊行することになった。本書に含まれる刊行物の年代は日清戦争直後から敗戦に至るまでの時期を取り扱う。それは日本が韓国を植民地化する事実上の第一歩であったし、最終巻に収めた『近代朝鮮史研究』は当時の朝鮮史研究の水準を示すものとして貴重である。

そもそも日本の朝鮮史研究は、『日韓併合秘史』以来数多くの研究がなされてきたが、それらは本書にも取り上げた善生永助ら、朝鮮総督府の官吏や雇員ないしは篤志家などが、営々として積み上げた成果に基づいているのは周知のとおりである。それらは同時代史として現在でも大きな価値を有している。同時に戦前の朝鮮史研究には針小棒大と言つては語弊があるがイデオロギーに傾く傾向も否定しえない。今回現在の朝鮮史研究あるいは植民地研究にとつて欠くことのできない資料を厳選した。敢えて『日本植民地下の朝鮮研究』を刊行するゆえんである。

第2巻 朝鮮統治論 初版

第2巻

朝鮮統治論 初版

青柳綱太郎著／大正12年／朝鮮研究会

【内容】 叙論、支那の朝鮮統治失敗史論、武断政治史論、文化政治論、行政、日本建国の精神と朝鮮統治、朝鮮人同化問題、文化政治と新旧思想の衝突、擾騒と革命心の由来、革命の先鋒と邪教、併合当時の失錯、統治資料と両民族一家の史実、朝鮮民族血統論、文化政治と国境防備、征服被征服問題史論、地方行政、文化政治と大社会教育機関、文化政治と治水問題、関税撤廃と産業同化、財政と経済、司法制度、朝鮮統治と宗教、朝鮮統治と教育、文弱の風潮々々、警務と其機関、朝鮮統治と地方官、朝鮮統治と在満洲朝鮮人、交通及通信、農業、朝鮮統治と東洋拓殖会社、商業及工業、林業及鉱業、水産業、官有財産及官営事業、衛生、朝鮮統治と民族性の改鑄、未墾地開墾と屯田兵制、文化政治下の朝鮮人に与ふ、大日本主義と在鮮日本人、朝鮮統治結論

第3巻

最近の韓国

松宮春一郎著／明治38年／早稲田大学出版部

【内容】 日露戦争の開始、日露開戦前後の韓国、日韓議定書の訂立、日韓大使の往来、韓宮新王城の火災、鴨綠江勝利の余響、排日本の通文、観戦客一行の韓皇謁見、荒蕪地開墾事件、施政改善の序幕、大東俱樂部の設立、長谷川大将の駐韓、京城に於ける米人の企業、韓国皇太子妃の薨去、軍政施行及軍事警察、韓国内の保護、顧問政治の進行、軍制の改革、韓国通信機関の委託、日韓皇族の来往、韓国河川沿岸の航行自由、利権契約の無効、政治団体の雄躍、韓国内閣の転変、鉄道の敷設、財政の整理、経済的経営、教育の現在及将来、韓人の生活問題、媾和成立前後の韓国、韓国の地位

朝鮮の人口研究

善生永助著／大正14年／朝鮮印刷株式会社出版部

【内容】 李朝時代の戸口、併合以後の戸口、人口の分布、素質別人口、出生・死亡・疾病、結婚及び離婚、在外朝鮮人

朝鮮統治秘話

朝鮮行政編輯局編／昭和12年／帝國地方行政学会朝鮮本部

【内容】 官制改正と新幹部の組織、総督総監の任命より赴任まで、治安維持と警務当局の苦心、警察制度改正と組織の苦心、新政の趣旨宣伝と諸施設、統治方針と第一次予算編成、対外関係と言論結社取締問題、爆弾犯人と学生騒擾事件、李堉公脱出事件の真相、朝鮮語普及と美術展覧会、地方制度の画期的改正、学生改革を目指して、教育制度改正の基礎工作、騒擾渦中の朝鮮産業

第4巻

朝鮮に於ける内地人

調査資料第二輯

朝鮮総督府庶務部調査課編／大正13年／朝鮮総督府

【内容】 人口、戸数、農業、商工業、水産業、鉱業、林業

近代朝鮮史研究

朝鮮史編修会研究彙纂 第一輯

朝鮮総督府編／昭和19年／朝鮮総督府

【内容】 近代朝鮮に於ける政治的改革(田保橋潔)、朝鮮成宗時代の新旧対立(寺谷修三)、近代北鮮農村社会と流民問題(田川孝三)

第三 武断政治史論

七〇

第三 武断政治史論 (寺内總督の武断政治)

一、

失敗の歴史は日本政治家の鑑戒すべき

我日本帝國が東洋の趨勢と日韓の關係に鑑み、十年前朝鮮を併合するや、東海の一小島國人として、曾て大陸の文化に何等の根底を有せず、又何等民族的集團の優勢なる地盤を有するなくして、二千年の舊邦と一千五百萬の民族を併合統治するに、果して如何なる政策を以て之に往むべきかは、余輩の刮目せし所なり、余は前篇に於て支那大國が、二千年來對鮮策の失敗を歴述せり、此失敗の歴史は正に日本政治家の鑑戒とす可き所、余輩は右へを稽へ今を觀て、學ぶ可きもの多きを自覺せずんばあらず。

當時を回顧すれば、併合反對の鮮人は悲憤極度に達し、慷慨激越暗雲全鮮を蔽ふて、容易ならざる現象を呈し、暴徒亂民各地に蜂起して盛んに不服の氣勢を擧げ、表面平穩にして傍觀せし者、決して之れ併合に無關心の者に非ず、勢ひの不可なるを以て沈黙せしのみ、當時前韓の虐政に懲り、併合後の新政に活きんことを期せし者無きに非ざるべきも、祖國を葬つて帝

第4巻 近代朝鮮史研究

近代朝鮮に於ける政治的改革(田保橋)

三三

第一 大院君政權の成立

大島公使は七月十日朝鮮國委員と共に内政改革方案の審議を開始したが、朝鮮國政府がかゝる根本的改革案に同意することは到底期待し得られないので、同日改革案が全面的に拒絶せられた場合に執るべき強壓手段について請訓するところがあつた。

老人亭會議は七月十五日全く停頓したので、大島公使は豫定の行動を開始した。先づ七月十七日督辦交渉通商事務趙秉稷に信函を送り、日本軍の撤退を以て内政改革の先決條件とする朝鮮國政府の主張に反駁を加へ、東學匪亂の如きは一時鎮定することあるとも、その根本原因たる内政の紊亂が徹底的に改善せられざる限り、何時再發するや料り難い。日本國政府が内政改革を勧告するのも此理由によるもので、従つて内政改革の實施と日本軍の駐留は不可分の關係にあると説明した。翌七月十八日外務大臣に打電して、七月十日電請による強壓手段の實施に關して、至急回訓を督促した。(註一)

七月十八日大島公使の電請は、政府の最後の決心を促がしたものである。陸奥外務大臣は「座上の議論は兎も角も、實地に於ては今後韓地に於ける成行如何を見て、隨機應變相當の措置を施すの外、最早何事を爲すの暇なし」との意見を懷いたが、總理大臣及び閣僚は、大島公使に非常強壓手段の實施を一任すれば、即時日清